

技術士の目

いわてを見る

第2回

人と人とのオープンな技術連携で「明日の岩手」を創造したい！

安野 雅 満（応用理学部門、環境部門）

私は2014年9月に発足した「建設ICT生産システム研究会」の代表を務めさせていただいている。

技術士会岩手県支部にある11の研究会は「道路」や「河川」、「鉄道」など技術士の技術部門および専門分野に多くの礎を置いており、歴史を重ねている。「建設ICT生産システム研究会」はこの中で最も新しく、技術部門でも専門分野でもない少しだけ異質な研究会である。

異色だといっても、なにも闇雲に発足させたわけではなく、そこには必然性があった。

ご存知の通りわが国は、諸外国が経験したこともない猛スピードで少子・高齢化、人口減少の道を突進している。こと岩手県を含む北東北3県は、将来より深刻な事態に陥ることが予測されていると聞く。

私が身を置く地域の建設関連業においては、この波はさらに高く、優秀な若手人材の採用もなかなか難しい。どの社会、業界も同様であるが、継続・持続的な発展には優秀な人材、次世代への文化・技術の伝承があってこそだ。

この将来にわたる難局を乗り越えるため、経験・技術を有するOBの継続雇用や多様な人材の採用、より充実したワークライフを実現する「働き方改革」なども推し進められている。特にこれまで敬遠されてきた女性の積極採用など「女性活躍の時代」が真剣に議論・実行されている現実には喜ばしいことである。

労働人口として少数だった高齢者や女性が活躍できる社会を肯定する一方で、これまでの日本の文化や慣習を少し変えることにもなり、一部で痛みや歪みを生じさせないとも限らない。働き手を増やすだけで、真に豊かで幸福な社会を実現できるものか、些かの疑問も残る。

少子高齢化による労働人口の減少により、無策では日本のGDPは減少することになる。これらをも

質的に解決するには、革命的な「生産性の向上」とこれをもたらす「技術革新」による「新たな需要創出」こそが、この課題を解決する最良の道であると確信する。

翻って私ができる範囲の社会貢献として「建設ICT生産システム研究会」発足の必然性がここにある。「建設ICT」を活用し、建設関連業界に「生産性革命」をもたらしたい。周囲の技術士の方々からの温かい励ましやアドバイスをいただき「できれば岩手から全国に先駆けて実現したい」との意気込みを持つに至ったのだ。

研究会は個人資格である技術士が主体ではあるが、企業や組織の枠を越え産官学に属する多様な分野・技術・志を有する人材が手弁当で研究に取り組んできた。技術者が互いに連携し、持てる技術力・情報を共有し、議論・実証してさらに高め合う。企業秘密やノウハウに係る部分は気にもなるが、垣根を下げオープンにすることで、構成員の各々がより高度な技術やノウハウを再構築できていると感じる。企業の枠を越えた若手技術者のコミュニティを形成することができたのは特筆に値する。

結果として3D計測・設計分野では国内最高水準の技術力を有する若手集団が結成され、実ビジネスでの連携強化にもつながっている。人材育成・教育の場としての効果も高い。ただし組織も個人も自助努力が原則・鉄則だ。

人と人とのつながり、意志、ネットワークこそ新たな技術の革新につながり、人々を幸福へと導くとも感じられ、代表を務めさせていただいていることに深く感謝している。

産官学のみならず、すべての主体の方々が連携・協力し、思いやりと素直で柔軟なI（I-Construction・愛・岩手・私）。Iある心をもって、明日の岩手を共に創造していきましょう！